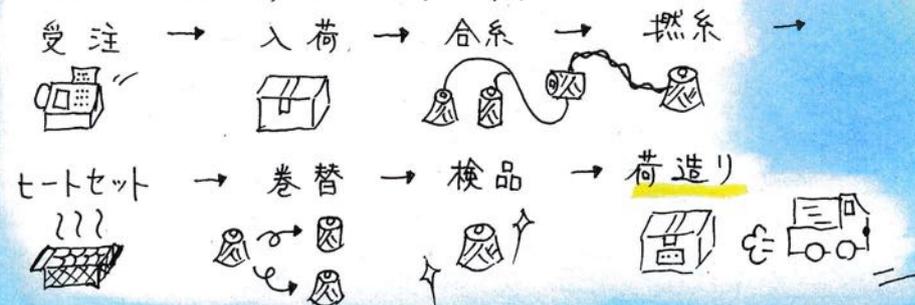


Binnen news vol. 34 2020. 6

いつも ひんねんニュースを読んで頂きありがとうございます。

今回は、荷造りについてです。



vol.14 から開始したこのシリーズも今回が最後の工程となります。

1本1本 最終確認された糸は、入荷した際のケースに丁寧にを入れていきます。燃系加工後は、入荷した時の原糸とは、ボビンの形状が違ったり、巻き量も違ったりする事が頻繁にあります。そこで、タテ置きやヨコ置きにして、場合によっては糸同士がこすれてしまわない様に糸を袋に入れたり、紙を糸の間に入れたりして、荷造りを行っています。輸入糸の場合は、ケースの隅が金具で取付されているものが多いので、運送中の振動で、糸がその金具に当たって糸切れするのを防ぐ為にテープを貼って金具をかすなどの配慮もしています。

ただ単に燃系加工した糸をケースに入れるというのではなく、紡績から受けとったバトンを次の染色や整経、整織、編立といった工程へと渡していくと同時に立派な製品に生まれよ!!との願いを込めて出荷しています。次回は、このシリーズの完結編となります。



備後燃系株式会社

Tel 084-958-3355(代表)

Fax 084-958-3358

<http://binnen-washiito.com/>(備和)